

島根県立大学看護学部開設記念式典知事祝辞

H24. 4. 19(木)

本日、県立大学「看護学部開設」の記念式典を迎えるに当たり、一言ご挨拶申し上げます。

四年制看護学部の設置は、県内の医療体制の充実に欠かせないものであり、長年の懸案でありました。それが今般、実現したものであります。

県立大学設置者である私ども県にとりましては、誠にうれしいことであります。

本田学長をはじめ、教職員の皆様には、日々の教育研究活動と並行して、新しい学部づくりに精力的に取り組んでいただきました。心から感謝いたしますとともに、深く敬意を表する次第であります。

工事関係者の皆様におかれましては、短い期間の中、適確な現場管理と安全対策を実施され、県産木材を使ったり、既設の建物とよく調和したすばらしい施設を建設していただきました。厚くお礼を申し上げます。

また、地元の皆様には、看護短大設置以来、いろいろな面でお世話になっておりまして、この機会に厚くお礼申し上げます。

さて、今日の医療をめぐる環境を見ますと、医療技術の進歩、また患者の方々や地域住民のニーズ・意識の多様化などにより、大きく変化してきております。

医療現場では、急速に進歩する医療技術を速やかに習得できる人が必要であります。また、高い倫理観や豊かな人間性なども、医療関係者に必要な大事な資質であります。

さらに、高齢化が急速に進む島根では、看護職員の方々には専門知識とともに、ご高齢の方々のお話をよくお聞きしたり、対話をするなどコミュニケーションの力も大変、大事になってきております。

こうした多様なニーズに対応する人材を育てるために、四年制となった看護学部には大きな役割が期待されております。

学生の皆さんには、4年間、しっかりと勉学をし、経験を積まれることにより、将来、看護師、保健師、助産師として、この島根の地で大いに活躍していただくことを期待しております。

終わりになりますが、出雲キャンパスの今後益々の発展と、ご列席の皆様のご健勝とご多幸を祈念しまして、お祝いの言葉といたします。